平成23年横浜港の港勢

入港船舶

		単位	23　年	前年比	構成比	22　年	前年比	構成比
総　数	**隻　数**	**隻**	**37,249**	**99.7**	**100.0**	**37,359**	**100.7**	**100.0**
	総トン数	**総トン**	**276,361,377**	**98.7**	**100.0**	**279,870,658**	**108.5**	**100.0**
外　航　船	隻　数	隻	10,709	99.4	28.7	10,771	104.4	28.8
	総トン数	総トン	237,431,276	98.7	85.9	240,627,401	109.9	86.0
うち フルコンテナ船	隻　数	隻	5,390	99.7	50.3	5,405	104.8	50.2
	総トン数	総トン	132,663,994	95.6	55.9	138,840,495	106.7	57.7
内　航　船	隻　数	隻	26,540	99.8	71.3	26,588	99.3	71.2
	総トン数	総トン	38,930,101	99.2	14.1	39,243,257	101.1	14.0

海上出入貨物

		単位	23　年	前年比	構成比	22　年	前年比	構成比
総　数	**貨 物 量**	**トン**	**121,326,484**	**93.5**	**100.0**	**129,693,278**	**112.3**	**100.0**
	うちコンテナ貨物量	**トン**	**46,658,916**	**89.5**	**38.5**	**52,131,871**	**117.9**	**40.2**
	コンテナ個数	**TEU**	**3,083,474**	**94.0**	**100.0**	**3,281,051**	**117.3**	**100.0**
外　貿	計	トン	80,754,701	92.6	66.6	87,212,482	116.2	67.2
	輸　出	トン	35,600,751	84.9	29.3	41,921,501	121.3	32.3
	輸　入	トン	45,153,950	99.7	37.2	45,290,981	111.9	34.9
うち コンテナ貨物	計	トン	44,251,797	89.8	54.8	49,290,102	117.9	56.5
	輸　出	トン	21,120,806	82.7	59.3	25,540,546	121.4	60.9
	輸　入	トン	23,130,991	97.4	51.2	23,749,556	114.4	52.4
コンテナ個数	計	TEU	2,802,916	93.8	90.9	2,989,555	117.0	91.1
	輸　出	TEU	1,497,657	93.4	48.6	1,603,024	116.2	48.9
	輸　入	TEU	1,305,259	94.1	42.3	1,386,531	117.9	42.3
内　貿	計	トン	40,571,783	95.5	33.4	42,480,796	104.9	32.8
	移　出	トン	16,749,229	93.3	13.8	17,948,583	107.3	13.8
	移　入	トン	23,822,554	97.1	19.6	24,532,213	103.2	18.9
うち コンテナ貨物	計	トン	2,407,119	84.7	5.9	2,841,769	117.4	6.7
	移　出	トン	1,257,204	87.3	7.5	1,439,681	113.9	8.0
	移　入	トン	1,149,915	82.0	4.8	1,402,088	121.2	5.7
コンテナ個数	計	TEU	280,558	96.2	9.1	291,496	120.1	8.9
	移　出	TEU	101,964	88.7	3.3	114,957	109.6	3.5
	移　入	TEU	178,594	101.2	5.8	176,539	128.0	5.4

（注）コンテナ個数は、実入・空の合計。
「うちコンテナ貨物」の構成比は、外貿又は内貿の貨物量に占めるコンテナ貨物の割合。

貿易額

	単位	23　年	前年比	構成比	22　年	前年比	構成比
合　計	**百万円**	**10,783,921**	**104.3**	**100.0**	**10,335,966**	**125.3**	**100.0**
輸　出	百万円	7,006,623	98.6	65.0	7,102,629	129.0	68.7
輸　入	百万円	3,777,297	116.8	35.0	3,233,337	117.8	31.3

（注）横浜税関資料による。（確定値）

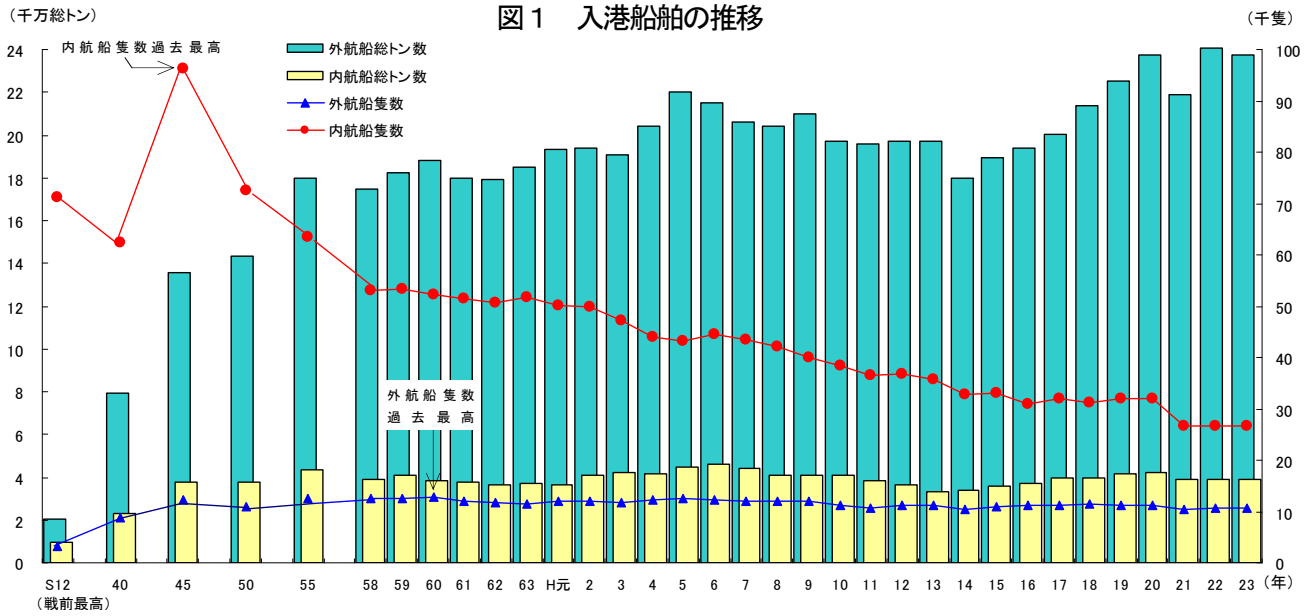
平成23年は、東日本大震災をはじめ、円高の急進やタイの洪水など厳しい環境下にあり、横浜港の取扱貨物は、1億2,133万トン（前年比6.5%減）となりました。特に、東日本大震災の直後は、サプライチェーンの分断により、輸出において中核をなす自動車関連品が大幅減となり、貨物量全体に大きな影響を与えました。

入港船舶の隻数、総トン数は対前年比で微減、コンテナ取扱個数も落ち込み、308 万TEU（6.0%減）にとどまっています。

1　入港船舶　【Ｐ９】

入港隻数は外航・内航合計で３万7,249隻（前年比0.3%減、以下増減%は前年比）となりました。総トン数は２億7,636万総トン（1.3%減）となり、いずれも２年ぶりに減少に転じました。

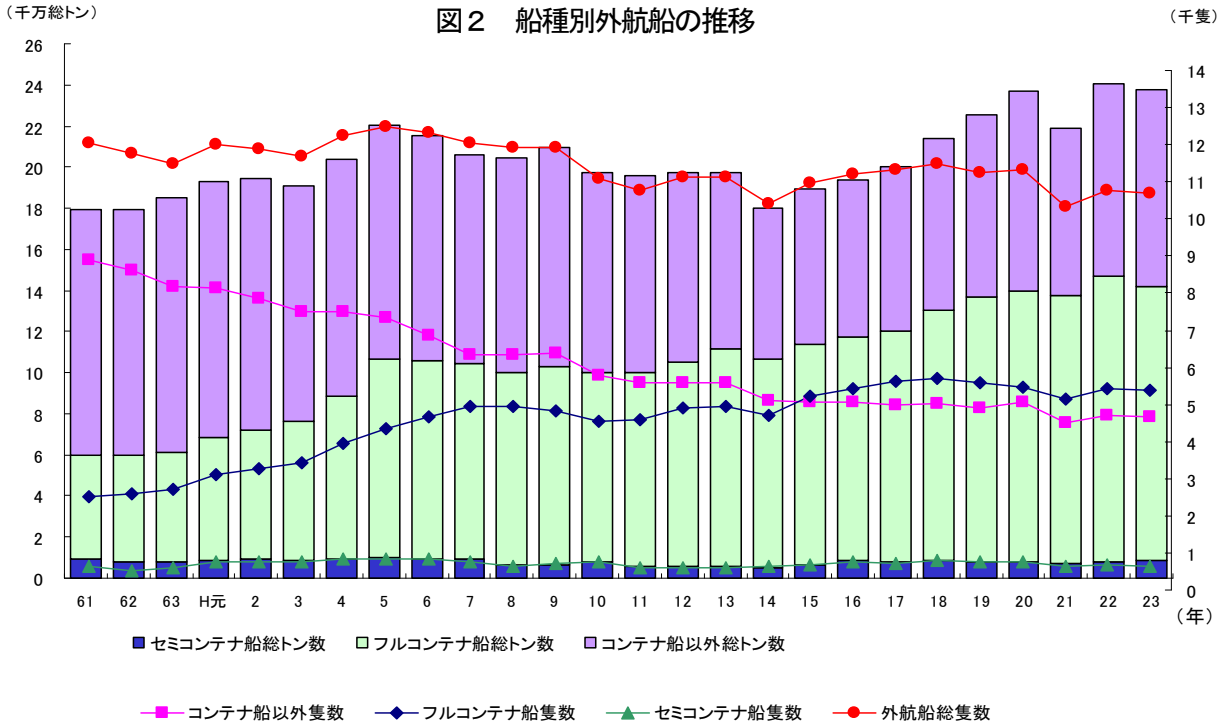
図１　入港船舶の推移



外航船の入港隻数は１万709隻（0.6%減）、総トン数は２億3,743万総トン（1.3%減）となりました。このうちフルコンテナ船は5,390隻（0.3%減）、総トン数は１億3,266万総トン（4.4%減）となっています。

内航船の入港隻数は２万6,540隻（0.2%減）、総トン数で3,893万総トン（0.8%減）となりました。

図２　船種別外航船の推移

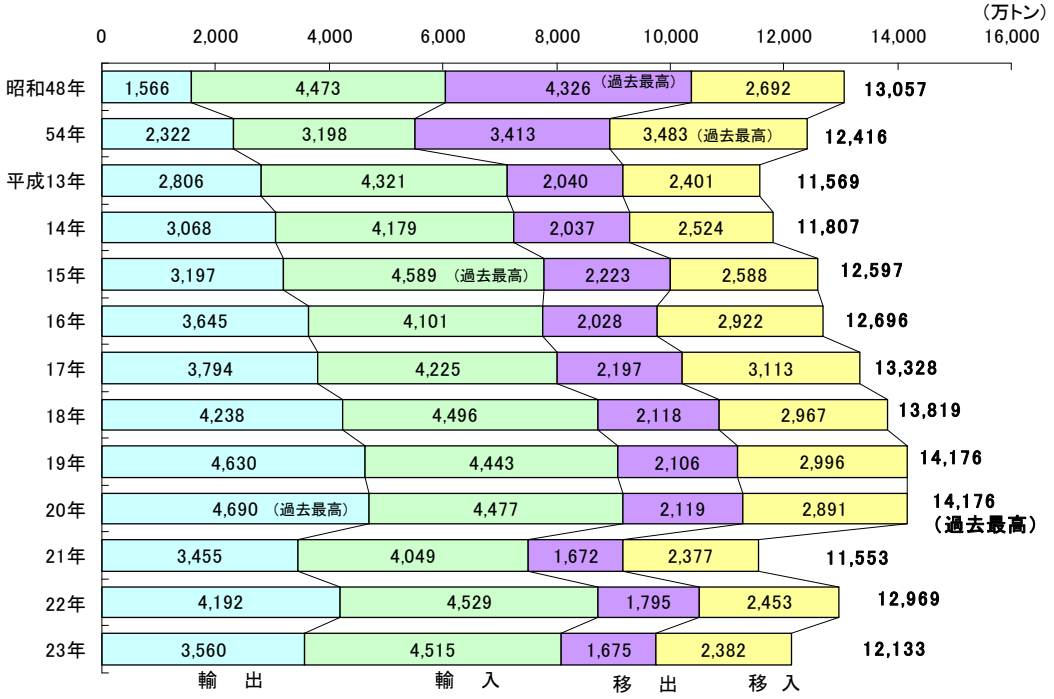


２　海上出入貨物

（１）総貨物量　…　震災の影響が大、下半期は回復傾向にあったものの前年水準には届かず　【Ｐ14、15】

外貿貨物量は8,075万トン（7.4%減）、内貿貨物量は4,057万トン（4.5%減）、総貨物量は１億2,133万トン（6.5%減）となりました。震災の影響で上半期の落ち込みは大きく、下半期は回復傾向にありましたが、円高の急進やタイの洪水等もあり、前年の水準には届きませんでした。

図３　海上出入貨物の推移



（２）輸出貨物　…　震災によるサプライチェーンの分断の影響が顕著に　【Ｐ14～16】

輸出貨物量第１位の「完成自動車」（1,137万トン、6.5%減、構成比31.9%）をはじめ、第２位の「自動車部品」（559万トン、16.6%減、構成比15.7%）、第７位の「ゴム製品」（115万トン、20.9%減、構成比 3.2%）など、震災後は横浜港の主力である自動車関連品種の取扱いの減が顕著で、「自動車部品」、「ゴム製品」は通年でも２桁減となりました。

国別では、第１位の中国（895万トン、12.9%減、構成比25.1%）、第２位のアメリカ合衆国（296万トン、25.0%減、構成比8.3%）をはじめ、主要相手国は軒並み２桁減となっています。

図４　主要品種別輸出貨物

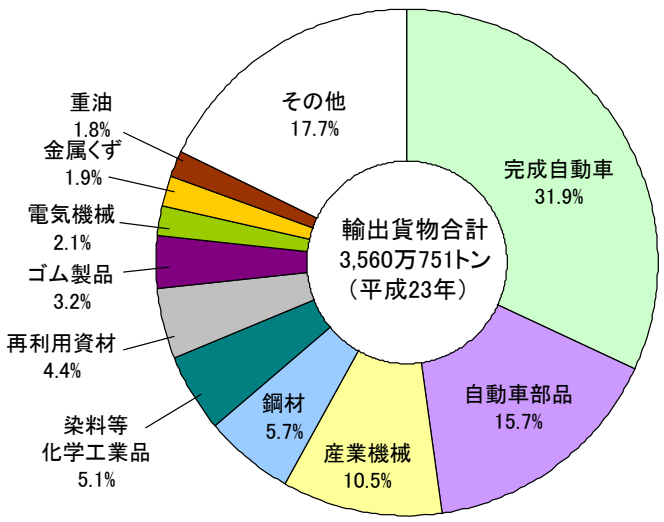
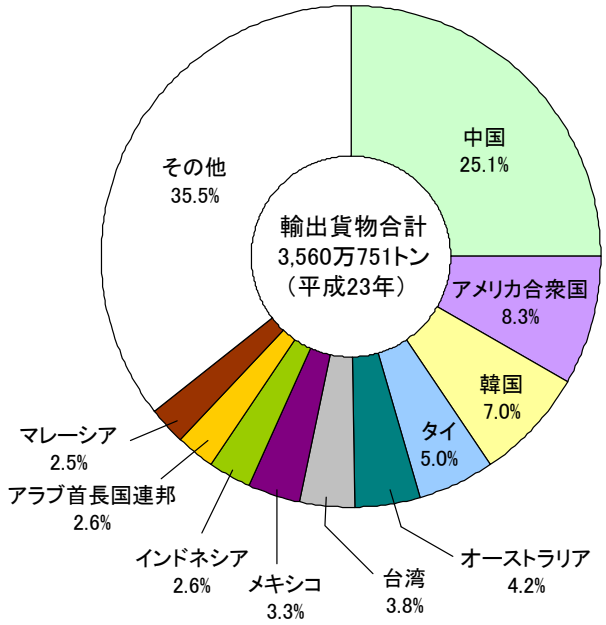


図５　主要国別輸出貨物



（３）輸入貨物　…　前年比０.３%減、貨物量は昨年と同水準　【Ｐ14～16】

輸入貨物量合計は4,515万トン（0.3%減）で、大きく前年を下回った輸出貨物とは異なり、昨年と同水準の取扱いとなっています。

品種別にみると、第１位が「ＬＮＧ（液化天然ガス）」で755万トン（5.2%増、構成比16.7%）、第２位が「原油」で624万トン（5.1%減、構成比13.8%）、第３位が「製造食品」で170万トン（2.5%増、構成比3.8%）となっています。

国別では、第１位の中国が860万トン（3.7%減、構成比19.1%）、第２位のアメリカ合衆国が508万トン（10.3%減、構成比 11.2%）と前年を下回りましたが、第５位のマレーシアはＬＮＧなどの取扱いが増え、451万トン（36.2%増、構成比10.0%）と前年を大きく上回っています。

図６　主要品種別輸入貨物

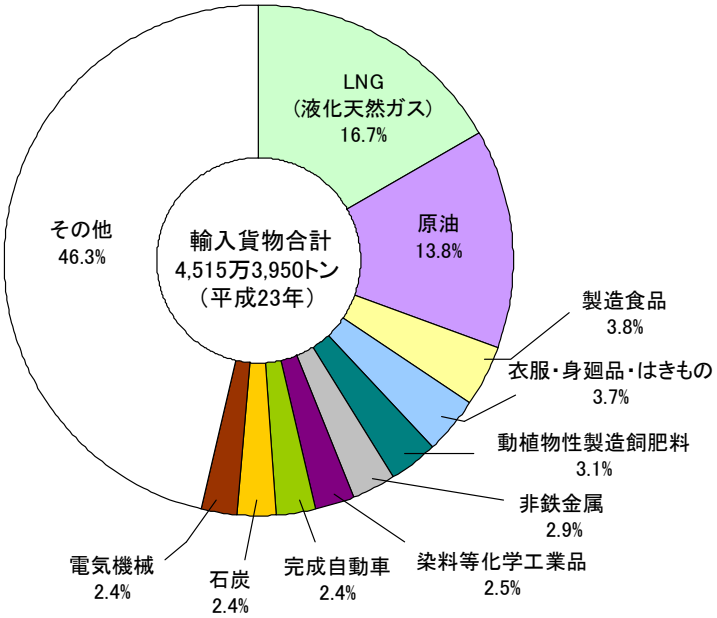
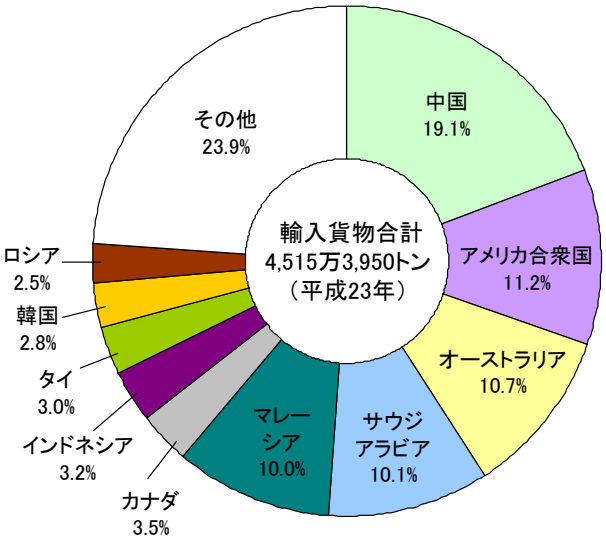


図７　主要国別輸入貨物



（４）内貿貨物　【Ｐ14、15、18】

移出入貨物量を品種別にみると、移出の第１位は「重油」で324万トン（6.9%減、構成比19.4%）、第２位は「石油製品」で301万トン（21.7%減、構成比18.0%）となりました。移入の第１位は「原油」で765万トン（14.9%減、構成比32.1%）、第２位は「完成自動車」で267万トン（1.2%増、構成比11.2%）となりました。移出入とも震災直後は大幅に貨物量が減少しましたが、その後は回復傾向にあり、通年では合計で4,057万トン、前年比で4.5%減となりました。

図８　主要品種別移出貨物

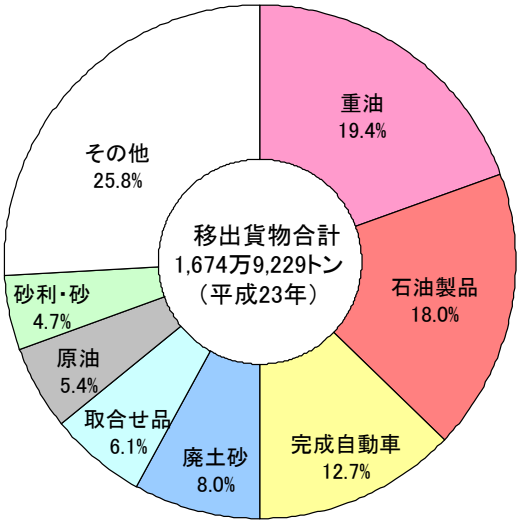


図９　主要港別移出貨物

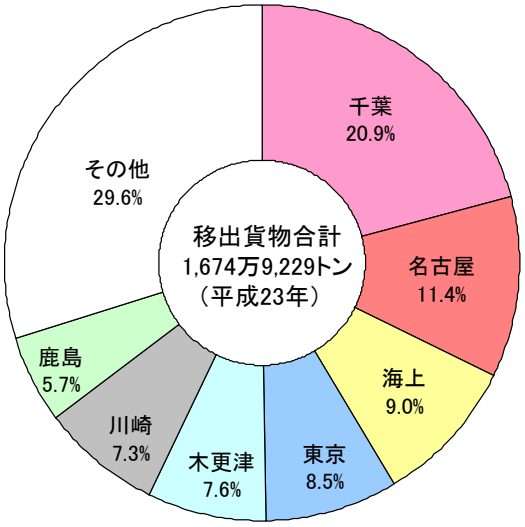


図 10　主要品種別移入貨物

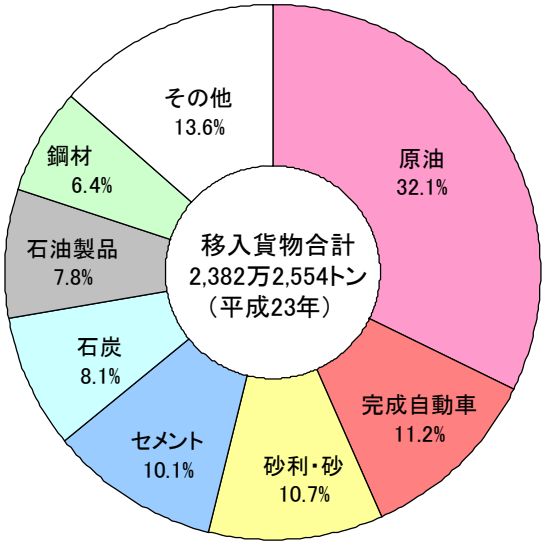
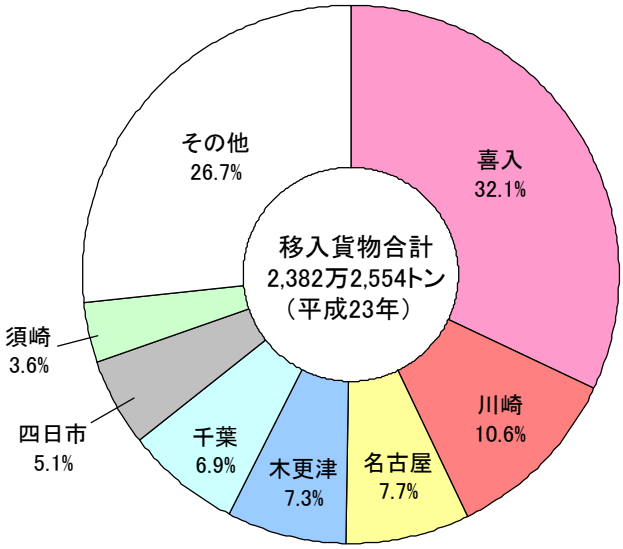


図 11　主要港別移入貨物



（5）コンテナ貨物　…　前年比２桁減、輸出貨物量の下げ幅が顕著に【P14、15、25】

外貿コンテナ貨物量は、輸出が2,112万トン（17.3％減）、輸入が2,313万トン（2.6%減）、輸出入合計では4,425万トン（10.2%減）と、輸出の落ち込みが顕著となりました。

外貿貨物全体に占めるコンテナ貨物の割合は、54.8%となり、８年連続で５割を超えています。

図 12　外貿貨物量の推移

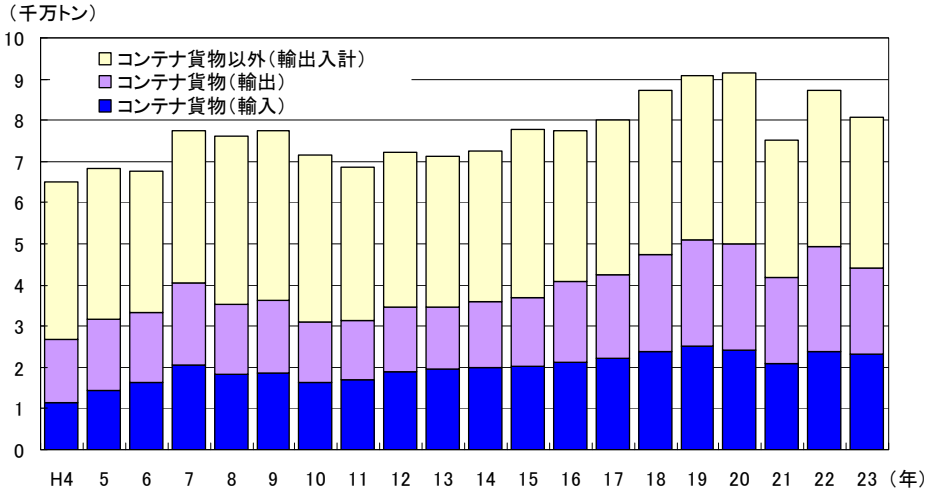
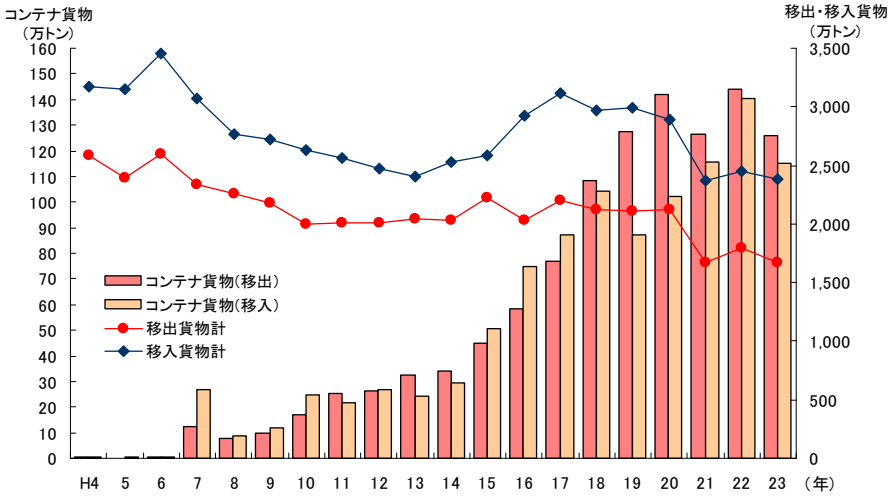


図 13　内貿貨物量の推移

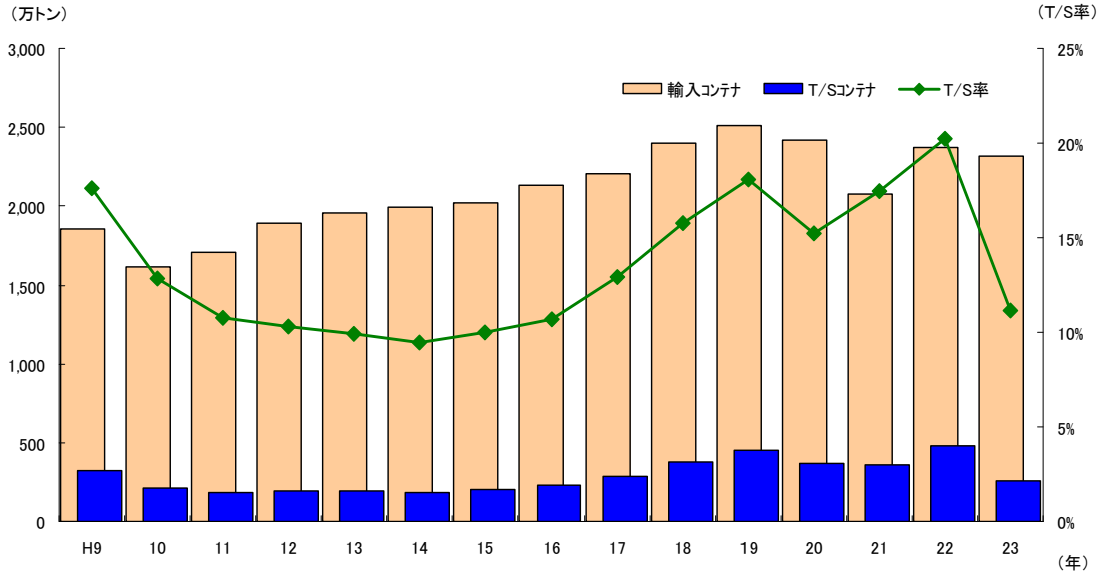


内貿コンテナ貨物量は、移出が 126 万トン（12.7%減）、移入が 115 万トン（18.0%減）、移出入合計で 241 万トン（15.3%減）となりました。被災地をはじめ、震災による影響が大きな港との取扱量の減少が顕著となっています。

（６）トランシップコンテナ貨物　【P26】

輸入コンテナ貨物のうち、横浜港で積み替えたトランシップコンテナ貨物量は258万トン、トランシップ率は11.2%となりました。平成22年の実績（479万トン、20.2%）から大きく後退しています。

図14　トランシップコンテナ貨物の推移



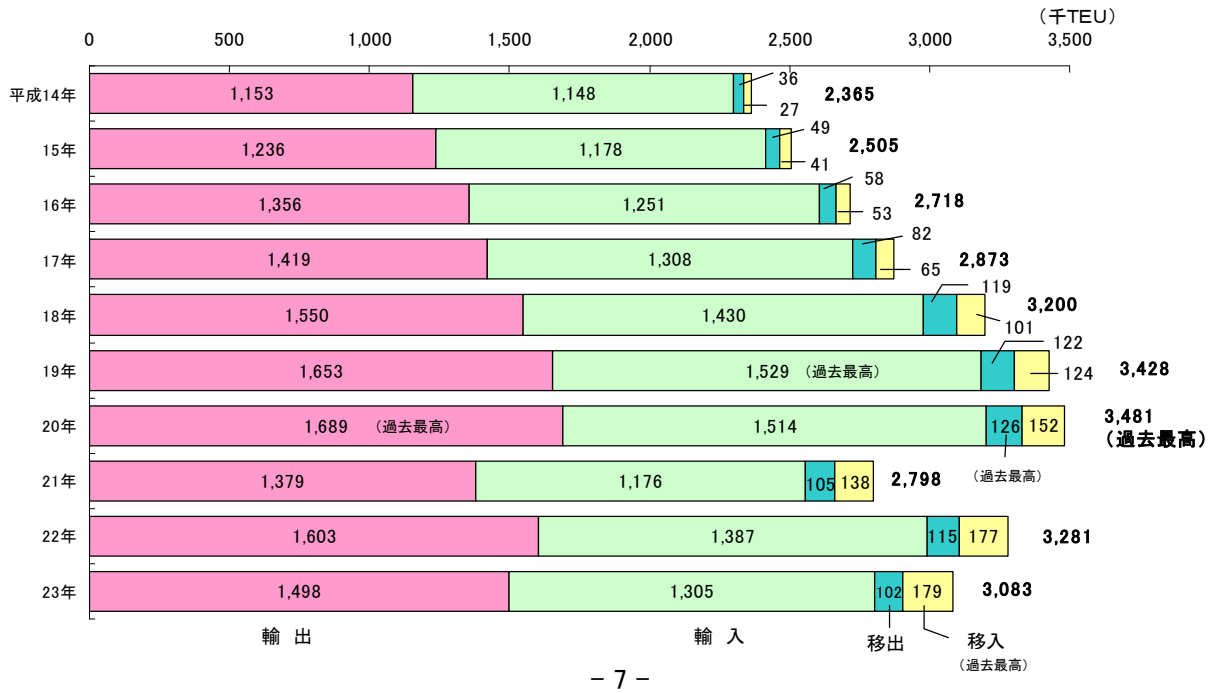
（７）コンテナ個数　…　前年比6.0%減、308万ＴＥＵにとどまる　【P20、21、48】

外貿コンテナ個数は、輸出が150万TEU(6.6%減)、輸入は131万TEU(5.9%減)、輸出入合計で280万TEU（6.2%減）となりました。

内貿コンテナ個数は、移出が10万TEU（11.3%減)、移入が18万TEU（1.2%増)、移出入合計で28万TEU（3.8%減）となり、移入では、平成22年に引き続き、過去最高の取扱個数を更新しましたが、実入個数では平成22年の実績を下回っています。

外内コンテナ個数は308万TEU（6.0%減）にとどまり、過去５番目の取扱個数となりました。

図15　コンテナ個数の推移



横浜港のコンテナ取扱個数（308 万 TEU）は、東京港（464 万 TEU）に次いで 12 年連続で第２位となっています。主要５港では、横浜港のみが前年の実績を下回りました。

図 16　主要港別コンテナ個数

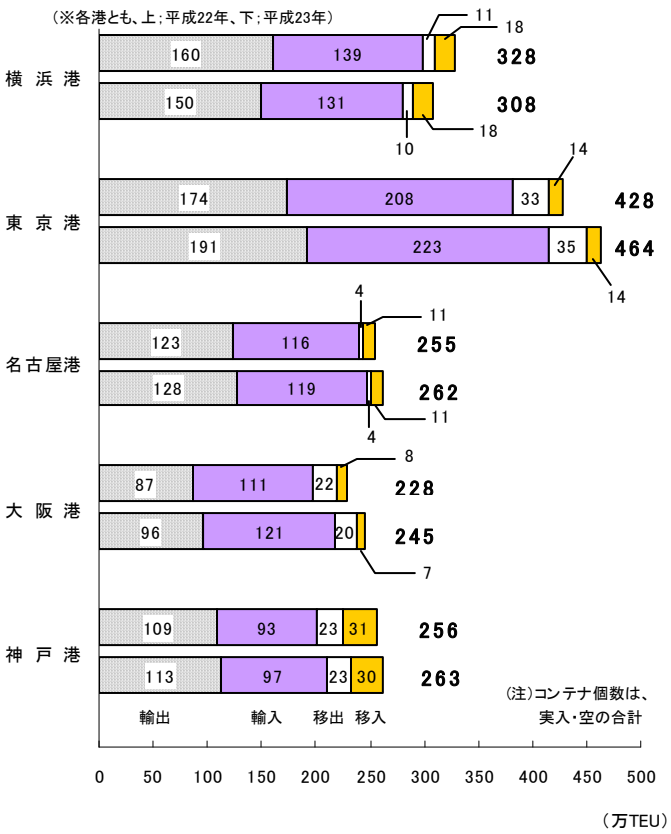
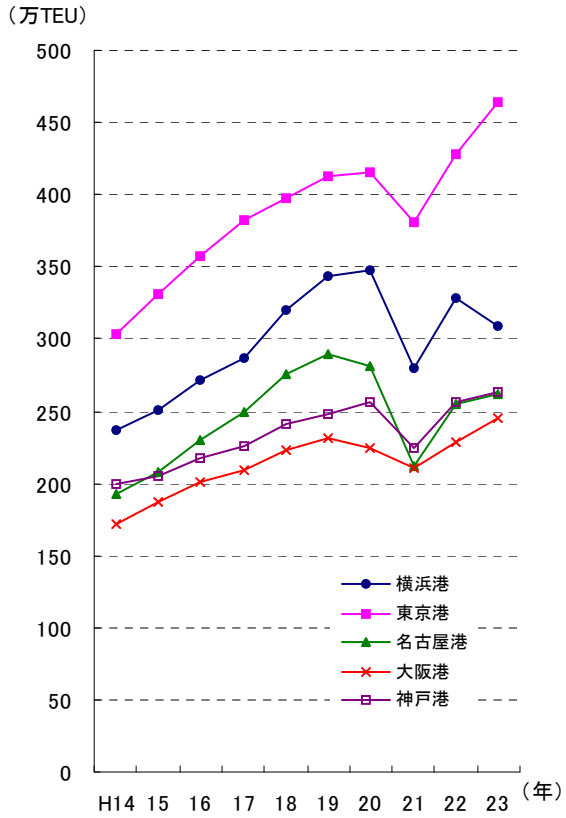


図 17　主要港別コンテナ個数の推移



３　施設別取扱貨物量　【P28～30】

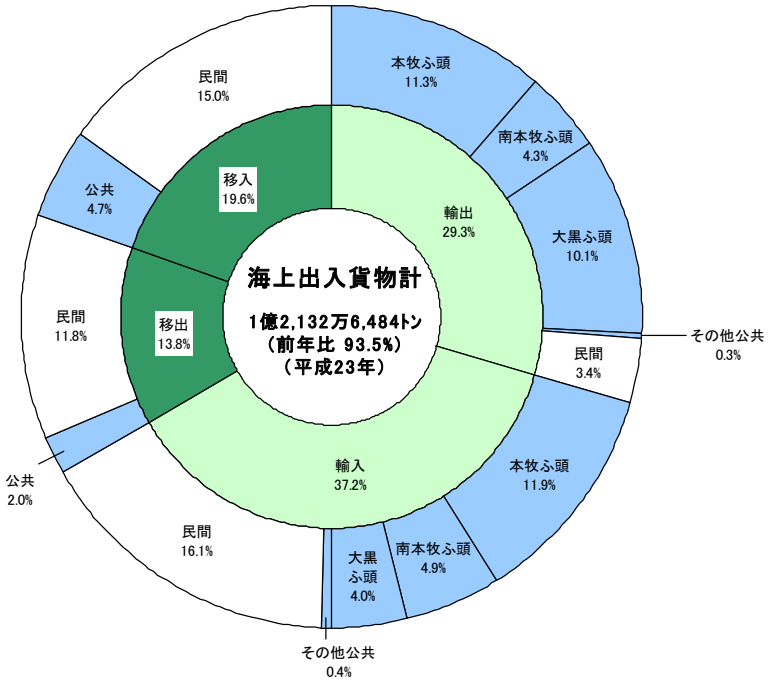
海上出入貨物量に占める公共施設（横浜港埠頭公社を含む。以下同じ。）の取扱貨物量は、6,520 万トン（7.7%減、構成比 53.7%）で、民間施設は 5,613 万トン（5.0%減、構成比 46.3%）となっています。

これを、外貿・内貿別に比較すると、外貿貨物の公共施設での取扱量は、5,716 万トン（構成比 70.8%）で全体の約７割を占めています。

一方、内貿貨物の民間施設での取扱量は、3,253 万トン（構成比 80.2%）で全体の約８割を占めています。

また、外貿コンテナ貨物の公共施設での取扱量は 4,425 万トンとなっており、外貿コンテナ貨物のほぼ 100%が公共施設で取り扱われています。

図 18　施設別取扱貨物



※公共（本牧、南本牧、大黒、その他）は、横浜港埠頭公社管理分を含む。